

小田政利先生

人工呼吸器をつけての外出は、見えづらい社会的拘束からの解放

先日はゼミからはじまり、お帰りのときには永田町駅まで同行させていただきました平岩千代子と申します。厚かましい申し出をご快諾いただきありがとうございました。

小田先生のお話を伺っていると、人工呼吸器をつけていらっしゃるのを思わず忘れてしまうくらい、ごく普通の方に思えて心をうたれました。故海老原宏美さんはとても素晴らしい女性なのですが、やはりどこか特別な方であるような印象をもってしまいがちでした・・・

人工呼吸器も、白杖のように、失った身体機能を補うある種の道具であることを痛感しました。これまで人工呼吸器といえば、生命維持装置、延命装置とのイメージをもっていただけに、目から鱗が落ちる思いをしております。

帰り道では、赤坂見附駅のビッグカメラ地下入口に車いすをとめてヘルパーさんに指示を出しながらの痰の吸引。地下鉄改札口では、南北線の永田町までどのように行くのがいいか駅員さんと相談するやりとり。

「本当に行くんですか？」と駅員さんに驚かれた、赤坂見付から永田町までバリアフリー整備経路での乗換は7基のエレベーターを経由する旅。2021年7月に完成したという、まるでロープウェイのように斜めに動く斜行型エレベーターに乗ることもできました。

「移動」という誰にとって当たり前の日常生活の一部を、障害者ご本人の立場で間近で見せていただくことができたのは貴重な経験でした。そして、豊かな超高齢社会を目指すなら、障害当事者が社会に出ること事態が、ご本人だけでなく、社会にとって不可欠な資源になることを実感しました。

私は、「最期まで身も心も縛られない暮らしと住まい」をテーマに活動している社会福祉士です。

小田先生の生きるお姿は、障害者に対しさまざまな見えにくい拘束を強いる社会から解放された、自由を謳歌するお暮らしにほかなりません。お辛いことや大変な思いもおありでしょうけれど、それを感じさせない立ち居振る舞いやコミュニケーションのお力にも敬意の念をいただきます。

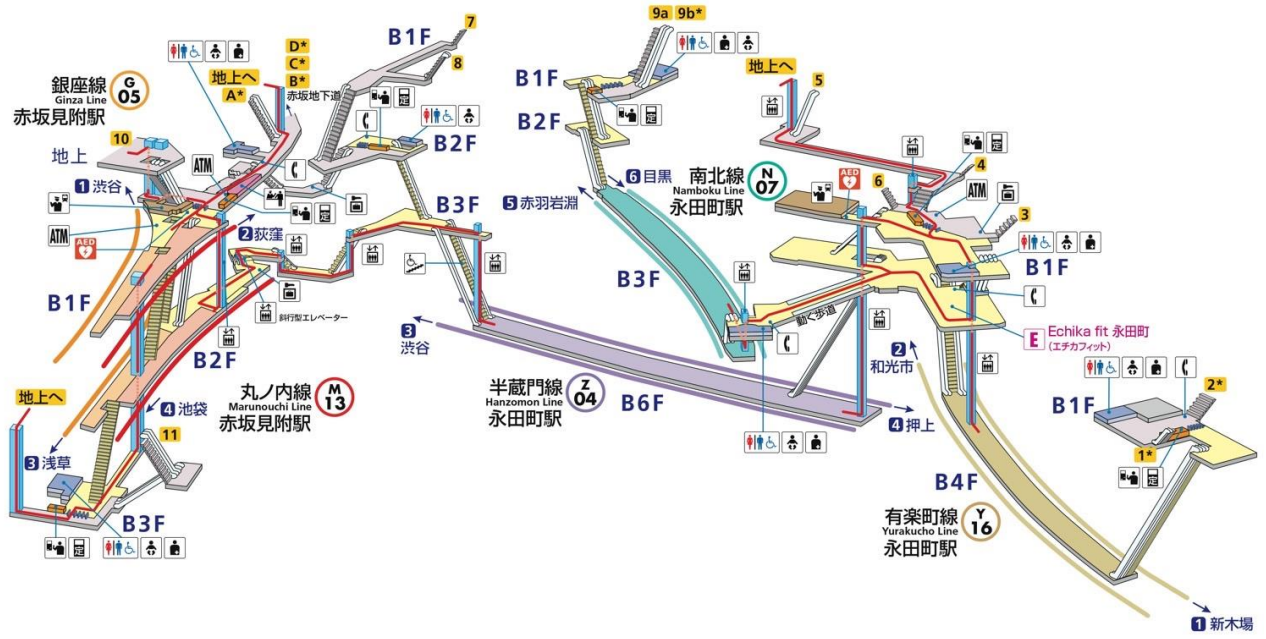
超高齢社会では、誰もが中途障害者になる可能性が高く、障害者が暮らしやすい社会づくりは、けっして他人ごとではありません。さまざまな生きづらさをお持ちになる当事者のお話を伺い、明日はわが身との想いをもちこれからも、学び続けたいとおもいます。

小田先生の今後のご健康とご活躍を祈念しております。本当にありがとうございました。

心からの感謝をこめて

平岩千代子 社会福祉士

赤坂見附/永田駅構内立体図



[2022.6現在]